

日本

鉱工業生産指数（2020年2月）

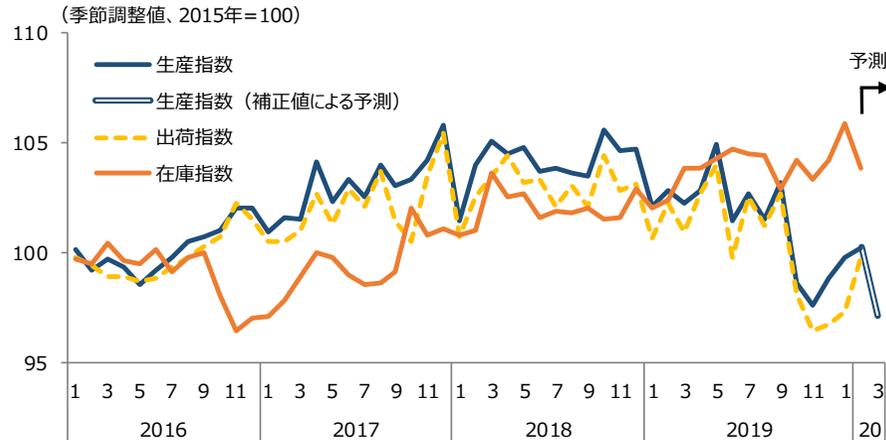
3カ月連続での増加も、先行きは弱い動きが続く見込み

政策・経済研究センター

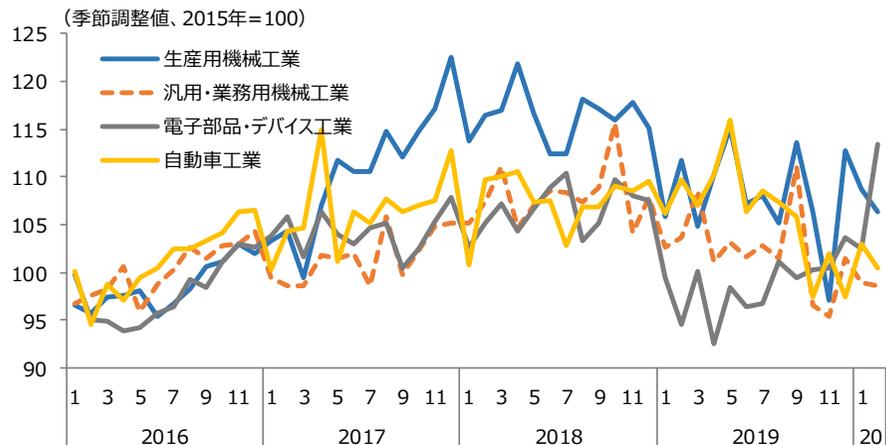
田中康就

03-6858-2717

1 鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



2 業種別の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 20年2月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+0.4%と3カ月連続で上昇。
- 業種別にみると、15業種のうち7業種が増加した。世界的な半導体関連需要が持ち直しつつあった電子部品・デバイス工業（季調済前月比+10.7%）は大幅に増加。半導体関連需要が強かった18年のピークの水準を上回り、全体を押し上げた。
- 一方、自動車工業（同▲2.4%）は、欧米向けを中心とする輸出の低迷や、消費税増税後の国内新車販売の落ち込みが抑制要因となる中、低い水準での推移が続いた。
- 生産用機械工業（同▲2.2%）や汎用・業務用機械工業（同▲0.3%）は輸出が減少傾向にあり、2カ月連続で減少。特に汎用・業務用機械工業は、在庫水準が高止まりしており、在庫調整圧力も生産を抑制しているとみられる。
- 製造工業生産予測調査によると、3月の生産は季調済前月比▲5.3%、予測値と実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値も同▲3.1%程度と、減少が予想されている。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、輸出の減少傾向や、消費税増税の影響を受け、低調な推移が続いている。2月の生産は3カ月連続で増加したものの、電子部品・デバイス工業の（一時的とみられる）大幅な増加がなければ、前月比マイナスであった。生産の基調は弱い。
- 先行きの生産は、20年前半にかけて弱い動きが続くと見込む。3月以降は中国のみならず、欧米やASEAN、日本国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大しており、①輸出の減少や、②サプライチェーンの寸断、③外出自粛を背景とする国内需要の減少などを通じて、日本の生産の下押し要因となる。特に、自動車工業は生産に占める欧米向け輸出比率が高いほか、在庫水準が低く、上記の①と②の影響を受けやすい。各社は3月末以降に国内工場の操業停止を予定しており、3～4月にかけて減少する見込みが高い。
- 生産の下振れリスク要因は、①新型コロナウイルスの流行長期化による世界経済の落ち込み長期化、②世界経済の落ち込みに伴う輸出減少の国内雇用・所得環境への波及、③消費税増税後の消費の低迷長期化、などが挙げられる。